

ナガイ アキヒコ

氏 名	永井 明彦
学 位 の 種 類	博士 (学術)
学 位 記 番 号	博第1029号
学位授与の日付	平成28年3月23日
学位授与の条件	学位規則第4条第1項該当 課程博士
学 位 論 文 題 目	企業間に関係性レントをもたらす仲介企業に関する研究 (The study on the mediator which will bring with relational rents to firms)

論文審査委員	主 査	教授	小竹 暢隆
		教授	荒川 雅裕
		教授	岩田 彰
		教授	越島 一郎

論文内容の要旨

本研究は、仲介企業、具体的には専門商社が、企業間に特別な信頼関係を形成し、関係固有資産を生み出し、それが結果として関係性レントをもたらすことを示す。特別な信頼関係が強いほど、活発に知識共有・活用がなされ、希少性の高い関係固有資産を生み出す蓋然性を高くするため、大きな関係性レントをもたらすことを、事例を基に検証する。その上で、社会で応用が可能な専門商社による連携モデルを提案する。

第一章では、研究の背景として特定の産業分野が活動範囲である専門商社の機能を示し、近年社会環境の変化により、専門商社の主要な役割である在庫・物流という単純な仲介業務を市場が必要としなくなっていることを、特に半導体商社に着目して述べる。

研究の目的が、協働企業間の信頼関係がどのような状態のとき、関係固有資産への投資が活発に促され、関係に結びつくのかを明らかにすることであることを示す。その上で、専門商社を仲介企業とする協働の事例を基に、以上を検証することを述べる。また、研究で重要な用語を定義し、最後に本論文の構成を説明する。

第二章では、本研究に関連する先行研究を網羅的にレビューした。特に、本研究の理論的視座であるリレーショナル・ビュー(RV)理論では、企業間で行う関係固有資産への投資

によって関係固有資産が生み出され、各々の企業に関係性レントをもたらすことが指摘されている。以上を踏まえて、リソース・ベースド・ビュー (RBV) 理論、ネットワークレント、ソーシャル・キャピタル (社会関係資本)、組織間信頼、「場」、オープン・イノベーション、カオス、に関する研究をレビューし、本研究の位置付けを示した。しかし以上の先行研究では、どのようなモチベーションが企業に関係固有資産への投資を促し、関係性レントをもたらしているのかについて十分な議論が不足している。したがって、新たな考察が必要である事を示した。

第三章は、先行研究を踏まえて、企業・組織を結びつけ、組織間に友好的信頼関係 (Goodwill Trust) を形成することで、企業間で関係固有資産に対する投資が活発になり、希少価値のある同資産を生み出すことができることを述べ、それが仲介組織の特定の機能・能力によるものであることを示した。具体的に、応用機能を保有する仲介組織は、組織間に友好的信頼関係を形成し、それが関係固有資産への企業間の投資を促すとともに、通常では外に出せない情報や知識の共有・活用を活発化する。これによって、企業が期待した以上の希少な価値を有する同資産を生み出す。

第四章は、事例研究である。本研究が着目する (1) 遊技機用画像処理 LSI、(2) 電子血圧計用マイコン、の二つの事例では、企業間連携から希少性の高い関係固有資産が生まれ、関係者に関係性レントをもたらしている。(1) の事例では、半導体商社により、半導体ベンチャー企業と大手遊技機企業に友好的信頼関係が形成され、デジタルパチンコ用画像処理 LSI が開発された。同 LSI は、遊技機企業にコンテンツの面白さという新たな競争力を提供し、さらに、期待以上の成果を生み出している。(2) の事例では、半導体商社によりオムロン社と TOSMEC 社に友好的信頼関係が形成され、論文でのみ発表されていたオシロメトリック法による血圧測定を実用化し、さらに期待以上の成果を生み出している。

第五章では、前章の事例を分析・考察した。分析から組織間の友好的信頼関係を形成することで、希少性の高い関係固有資産を生み出し、連携する企業や組織が関係性レントをもたらし、その実現に仲介組織が有効である事をモデルとして提示した。

第六章は、総括であり、学術的貢献、実務的貢献を示し、研究の限界及び今後の課題を述べている。本研究は、組織間連携が希少性の高い新たな価値を関係固有資産として生み出し、そのための方策として仲介企業、すなわち専門商社を活用する事で実現可能である事をモデルとして示している。以上の結果は、これまでの研究では検討されておらず、また、本研究が提案するモデルは実社会での活用が可能である。

論文審査結果の要旨

本研究は、仲介企業、具体的には専門商社が、企業間に特別な信頼関係を形成し、関係固有資産を生み出し、それが結果として関係性レントをもたらすことを示す。特別な信頼関係が強いほど、活発に知識共有・活用がなされ、希少性の高い関係固有資産を生み出す蓋然性を高くするため、大きな関係性レントをもたらすことを、事例を基に検証する。その上で、社会で応用が可能な専門商社による連携モデルを提案する。

第一章では、研究の背景として特定の産業分野が活動範囲である専門商社の機能を示し、近年社会環境の変化により、専門商社の主要な役割である在庫・物流という単純な仲介業務を市場が必要としなくなっていることを、特に半導体商社に着目して述べる。

研究の目的が、協働企業間の信頼関係がどのような状態のとき、関係固有資産への投資が活発に促され、関係に結びつくのかを明らかにすることであることを示す。その上で、専門商社を仲介企業とする協働の事例を基に、以上を検証することを述べる。また、研究で重要な用語を定義し、最後に本論文の構成を説明する。第二章では、本研究に関連する先行研究を網羅的にレビューした。特に、本研究の理論的視座であるリレーショナル・ビュー(RV)理論では、企業間で行う関係固有資産への投資によって関係固有資産が生み出され、各々の企業に関係性レントをもたらすことが指摘されている。以上を踏まえて、リソース・ベースド・ビュー(RBV)理論、ネットワークレント、ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)、組織間信頼、「場」、オープン・イノベーション、カオス、に関する研究をレビューし、本研究の位置付けを示した。しかし以上の先行研究では、どのようなモチベーションが企業に関係固有資産への投資を促し、関係性レントをもたらしているのかについて十分な議論が不足している。したがって、新たな考察が必要である事を示した。

第三章は、先行研究を踏まえて、企業・組織を結びつけ、組織間に善意的信頼関係(Goodwill Trust)を形成することで、企業間で関係固有資産に対する投資が活発になり、希少価値のある同資産を生み出すことができることを述べ、それが仲介組織の特定の機能・能力によるものであることを示す。具体的に、中心的機能を保有する仲介組織は、組織間に善意的信頼関係を形成し、それが関係固有資産への企業間の投資を促すとともに、通常では外に出せない情報や知識の共有・活用を活発化する。これによって、企業が期待した以上の希少な価値を有する同資産を生み出す。

第四章は、事例研究である。本研究が着目する(1)遊技機用画像処理 LSI、(2)電子血圧計用マイコン、の二つの事例では、企業間連携から希少性の高い関係固有資産が生まれ、関係者に関係性レントをもたらしている。(1)の事例では、半導体商社により、ハイテク・ベンチャー企業と大手遊技機企業に善意的信頼関係が形成され、デジタルパチンコ用画像処理 LSI が開発された。同 LSI は、遊技機企業にコンテンツの面白さという新たな競争力を提供し、さらに、期待以上の成果を生み出している。(2)の事例では、半導体商社によりオムロンと東芝に善意的信頼関係が形成され、理論でしか存在しなかったオシロメトリック法による血圧測定を実用化し、さらに期待以上の成果を生み出している。

第五章では、前章の事例を分析・考察した。分析から組織間の友好的信頼関係を形成することで、希少性の高い関係固有資産を生み出し、連携する企業や組織が関係性レントをもたらし、その実現に仲介組織が有効である事をモデルとして提示した。第六章は、総括であり、学術的貢献、実務的貢献を示し、研究の限界及び今後の課題を述べている。本研究は、組織間連携が希少性の高い新たな価値を関係固有資産として生み出し、そのための方策として仲介企業、すなわち専門商社を活用する事で実現可能である事をモデルとして示している。以上の結果は、これまでの研究では検討されておらず、また、本研究が提案するモデルは実社会での活用が可能である。

よって、本論文は博士(学術)の学位論文として十分に価値があるものと認める。